



1305
7

善知安方忠義傳前編卷之五

江戸 山東京傳著



霞の谷

光国又書院と抄に所由にてる。金地の繪障子朱欄
 于結構羨麗を尽す。忽一陳の冷風堀と吹来り。やがたたる翠簾
 吹わたる。そのうち孤なるも異類異形の變化集居たり。或は
 櫛形の穴より大なる斬禿の顔を出て打笑。妻戸の四ヶ所。一寸
 なるこの人馬も乗行列。孤正して出来ぬ。或は隻眼一足三面六臂手
 長足長のごとく。或は文居て荒海の障子の絵の抜出たり。或は
 なるなり。光国それをみて。あか奥力を化さぬ。我手段を試んと

書口巻之五



書口家



其六

書口家

猛勢あり化物をひきせし。つどくたぐひ乗つる。あまのひら。腕をさす。つひに板敷の上。手枕して足ふみの。びや。高麗となて。てそれらうぬ。誠は大膽不敵の所為あり。と。さそらう。小時とら。しとれらうと醒し。耳をさだめて。同バ。さう。奥深さ。方。管絃の音。さそらぬ。光国。さう。かく人の住さう。旧御所。小管絃の。あまの。うづぐれ。いそれぬ。これもある。妖怪の所為なり。何。その源。たぐぬ。じ。その音。以。慕。く。回。こ。も。る。れ。坐敷。と。と。と。と。長。き。行廊。と。渡り。ゆく。み。斬。み。其。音。ち。う。づ。さ。ら。る。不。由。だ。て。る。と。び。ひ。ふ。み。三。重。み。の。う。ら。な。る。大。方。の。楼。閣。の。中。は。是。乃。将。門。常。み。の。あ。ら。の。美。女。白。拍。子。を。集。て。酒。宴。遊。樂。也。所。之。月。の。光。丹。乘。ど。こ。と。と。望。さ。る。小。第。一。の。花。舟。遊。仙。窟。と。い。ふ。三。大。字。以。鑄。た。る。金。だ。の。額。を。か。け。たり。筆。法。九。な。し。と。道。風。

佐理。さう。の。筆。う。と。と。あ。れ。け。り。翠。の。薨。朱。棟。干。極。彩。色。の。掛。拱。錦。欄。卷。の。柱。折。梁。み。珠。玉。以。鏤。懸。魚。暮。股。み。五。色。と。彩。り。狐。格。子。花。狹。間。み。の。う。ら。な。る。まで。飛。驒。の。た。く。の。手。以。こ。め。て。結。構。美。麗。詞。み。尽。く。と。あ。ら。う。も。わ。ら。ざ。れ。と。こ。も。皆。敗。推。て。昔。の。光。彩。つ。づ。み。残。る。の。と。新。小。つ。ら。ら。建。た。る。時。の。う。ら。な。り。美。麗。み。あ。ら。う。と。さ。ら。ひ。ア。れ。そ。の。費。い。さ。さ。く。あ。ら。う。け。ん。量。知。切。り。貢。税。以。虐。官。物。と。掠。ら。れ。と。さ。る。こと。鎚。鉄。以。尽。し。これ。を。用。る。と。泥。沙。の。如。く。道。と。急。ぐ。行人。も。こ。れ。が。為。み。道。以。塞。れ。農。と。勤。る。里。民。も。夫。亦。執。して。農。と。妨。と。く。民。さ。ら。う。と。将。門。と。恨。も。ぶ。く。理。と。さ。る。扱。第。一。層。の。楼。上。小。灯。の。光。あ。ま。く。ほ。て。管。絃。の。あ。ら。う。と。妙。し。と。そ。妖怪。の。せ。ら。と。所。あ。ら。う。と。さ。ら。ひ。ア。れ。た。と。の。う。ら。な。り。魔。縁。化。生。の。の。の。あ。ら。う。と。も。い。う。た。う。りの。変。り。あ。ら。う。と。打。と。ア。ら。う。と。諸。人。の。眼。を。お。ど。ろ。か。す。

歴と多の刀の目釘汲志也鏝えはくつろげ。朱ねりの櫛をのつとらうく
より巳小第一階ふらりて折戸のひびふらうこのぞれえねれ。うち銀
燭をてりして白日のごとくあはらうなり。あやしくか丈かる紺昔の髪
をたるとい。錦襴纈纈を才おまるとひられあいの袴はくもたる美
女七八人花のごとく粧をあふそひて居るび。琵琶笙和琴大鼓羯鼓
笙感箏箏のたぐひの楽器以把て韻をたぐし節以そのへ敏系弦急管
の声一奏三嘆の調融と洩として天地を感せしめ。山川を風とづくそ
るのせぐる矢猛心の光国もあまなく因やとけるが心たをて変仕小先と
起られまはとやうて折戸を押し開てとどろいので刀を抜て斬おひけねの
義女とも同音ふらると笑て奥の方へと逃入けり。光国怒はか(楽器と
あまらひして。とどろい追也入とにたる所ふ。左右の絵障子さとしひりけり。

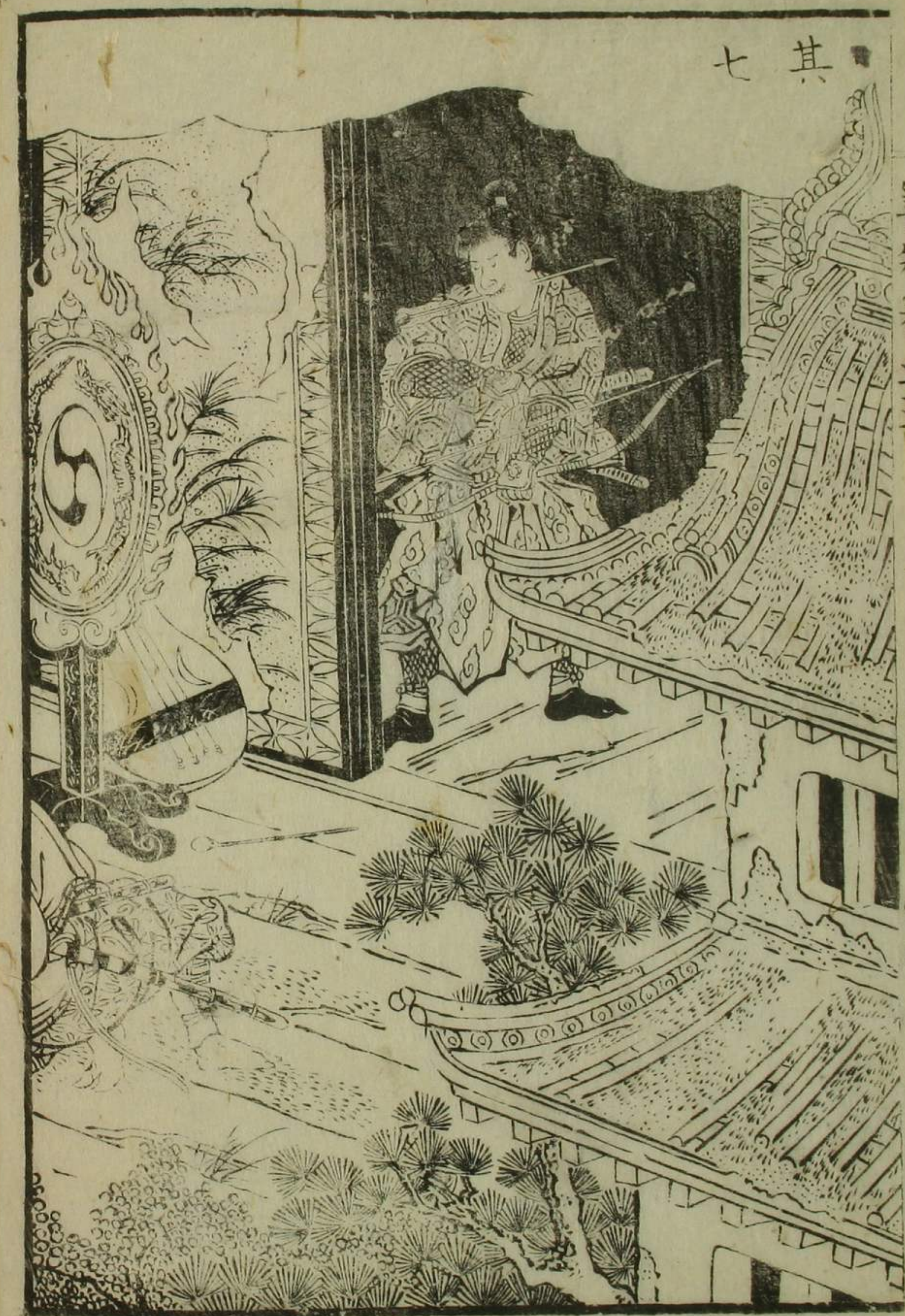
四人の荒男箇々手錠をまことのづてあられ出光国をちるふらうこの左石
一度小はにけたり。光国えくらやうとよがりつ。身とあうらていれ
とうけおとれ退き。打あはして飛まらうと。さだまもたたく。ひりめたさうら
餅さねと弓手妻手小さけのぐれ。その敏こと恰も波上小ひりかつる燕み
ひびしく雲回小ひりぐく電ふことめ。四人の者汗もあまふ息もつこ
あつを阿時の呼吸ともあつとふ。がなつとこまんとをたけり。ごふあ
うとえまはや。らあひりれ。がらふとるん。こふあて。ひけりひのこくま
ろーのごとく。あはせもすとむることあひざねれ。四人の餅さねの皆つごふ
空中をつくのこあり。四人の者志の猛しとひと。光国が早業小敵する
ことあつごど。わづく危くええたる所ふ。上段の間の翠簾のうち小清
婉たる女の声にして。やうくとやめつるが双方とも手ととめよ。妾はぐく

旅人小對面せん。あがりくとよがひひけし。四人の者へあつとこゝろて左
 右小退き鉾をうせ頭ひさげて平伏す。光国も手とどめてめしこゝ
 めぐし居らる小警蹕の声こもみ。ささこわとの義女ともさうくと走り
 出上段の下小膝行して。破れたる翠簾とさうくと巻あぐれがら
 ゆい暈綱縁の厚畳とあさそのよふ唐錦のさびたる褥とさき
 朽木形の几帳をたて。ひとりの上臈横目扇以顔ふゆひて坐し
 たり。綾羅の五衣を穿濃く。れあおの袴とひね。蘭奢のさやうと懸
 郁して。自昇とせむひ。袿束の繡さうめにて。金屏小のさうとあひぬ
 光国これと吃とえて呵くと打笑。くも化つる。汝変化の首長ふ
 うさひ。目小物入るとよづらう。かひひぐらひて飛からん。とま
 ちる小。勿心五体よとて。さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
 時小上臈扇とさうと

のけて面をあらし。光国をなげし目小入りて。かこふ小。大なる形物。此
 世の人とへるのさうと。をさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
 ええさう。春黛の眉の匂。丹花の口つさ。愛じく。桃李の粧。芙蓉の眸
 いとけたく。緑の簪雪の肌。愛敬百の媚。つもつけ。さうとさうとさうとさうと
 天玄女の下濁。小天降ませらうとさうとさうと。初めの上臈。ふたが玉音とひ
 こと。光国小むらひてのさうとさうとさうと。汝妻以變化の物とさうとさうと
 あやう。れいのふあ。さうとさうとさうと。抑妾ハ人王五十代の帝。桓武天皇五代の曾孫。前將
 軍平の良將の嫡男。滝口小次郎相馬の將門が娘。且仏門小入て法名
 を如月とのひけら。第平太郎良門と心と合せ亡父孝養の為。一擧拳の義兵
 と起人とるひ立。つ小飯俗して。今滝夜刃とのふ。ちうさう。此田内裏小かこれ
 住。第良門が蝦蟇の術とまきびて。種この妖怪とあら。ここと退治せん



善知卷之五



其七

善知卷之五

来るものとももの剛臆をたじえて。剛なる者ハ味方おつけ。臆なる者ハ
その終斬まて。空堀のうめきとと。あまみ此所ふける者うらび生て久
ることと。巴ふる余程の味方集しね。とある侍女ともいふとあり。味
方の者の妻女姉妹或ハ娘なり。宵のちとよりさめぐ品狐かて。汝器量
をこころとつふ。誠み汝ハ大膽不敵の勇士なり。殊更今の本事とらる
小武藝も又よめつ。ちやうどハ味方ととるふ不足は。汝今よると妾兄弟が
麾下小属。軍務をたげむおわつてハ。后来の栄耀心の欲る所ハ。應は
汝うごこと器量ありて。いづる小朽果んへち。とて。や。や。此一卷
小姓名とよはし。血判をとえよとのひく。綾羅の袖の下よると。一軸の結
黨盟書といひ。侍女とて。光国小渡と。光国こも。狐ひくこと。とて。声
をげく。いひく。其世小零落て。貧乏浪人の才なり。とのひく。大逆

无道ふらみ。朝敵とよまれ。弓箭の名をけじて。后日の栄花とて。むる
心ある。いんぎの朝敵将門の娘とか。麻瓜ら。あて麻を得。豆瓜ら。あて豆を得
とのひく。古言のごと。賊人の胤ふねと人を生るも。理なり。女ふ似合ハ。非道の企
ても。おまぬ望なり。あまかぬ企せん。よら。い。と。の。ご。と。頭。瓜。ら。あ。て。一。銭。二
銭の情を乞て。露傘をはか。ぐ。は。か。ら。め。と。さ。も。あ。く。げ。小。聖。言。け。ぐ。い。こ
此盟昏。まら。の。ご。と。な。し。と。の。ひ。の。足。下。ふ。う。け。て。踏。破。ら。ん。と。あ。ま。の。所。み
忽弦音漂とひ。と。一。枝。の。笠。削。飛。来。り。て。光。国。が。腕。を。射。け。り。け。し。と。血。不
た。ら。と。流。れ。て。引。ひ。ら。げ。た。る。盟。昏。の。う。ふ。お。ち。か。ら。ぬ。あ。ま。と。え。る。所。ふ
と。ら。む。の。一。間。より。白。糸。緘。小。銀。の。鏢。綴。ま。る。腹。巻。の。う。ふ。蒲。萄。染
の。尉。斗。目。狐。着。し。丹。地。の。錦。の。袴。を。と。ま。る。銅。作。の。太。刀。小。熊。の。皮。の。尻
鞆。か。けて。た。た。た。る。武。者。側。黒。の。弓。を。小。服。ふ。ま。さ。み。て。悠。々。と。出。来。り。光

国をむす。和殿一味同心の血判早速領掌あつて喜びふたんどといふ光
 国此人以下しく見えしは昼など途中めてて会つる樵夫わりなきは唯あきれ
 てうちまのそ居る。かの武者あつてびひるはのぶらゝあつて理なり。今の
 何どうほみやさん某の相馬の家臣隅田丸即將真之子同四郎真熊異
 名取荒猪丸といふ者なり。某才不肖なりといひても滝夜刃姫公補佐に
 大儀と企武勇剛強の者公得まへて折く刃を拵りて往來のちまごふ
 ぎ族人の器量とてをばるふ。今日とていざ和殿におひ相親なびとよ
 といへるればわざと志氣励まれば詞をもちひて此所へいざあひよせぬ大事
 とあじて后若違背し。こゝ唯一箭不射殺人と。やうてふかごとていざひ
 けり。あつて勇士と並別さふ失りんとて公の御み。刀とて鑊の刃とひき。膽
 氣と折人と志するも幸ひして盟唇のうふ血の流と落ちぬ和殿

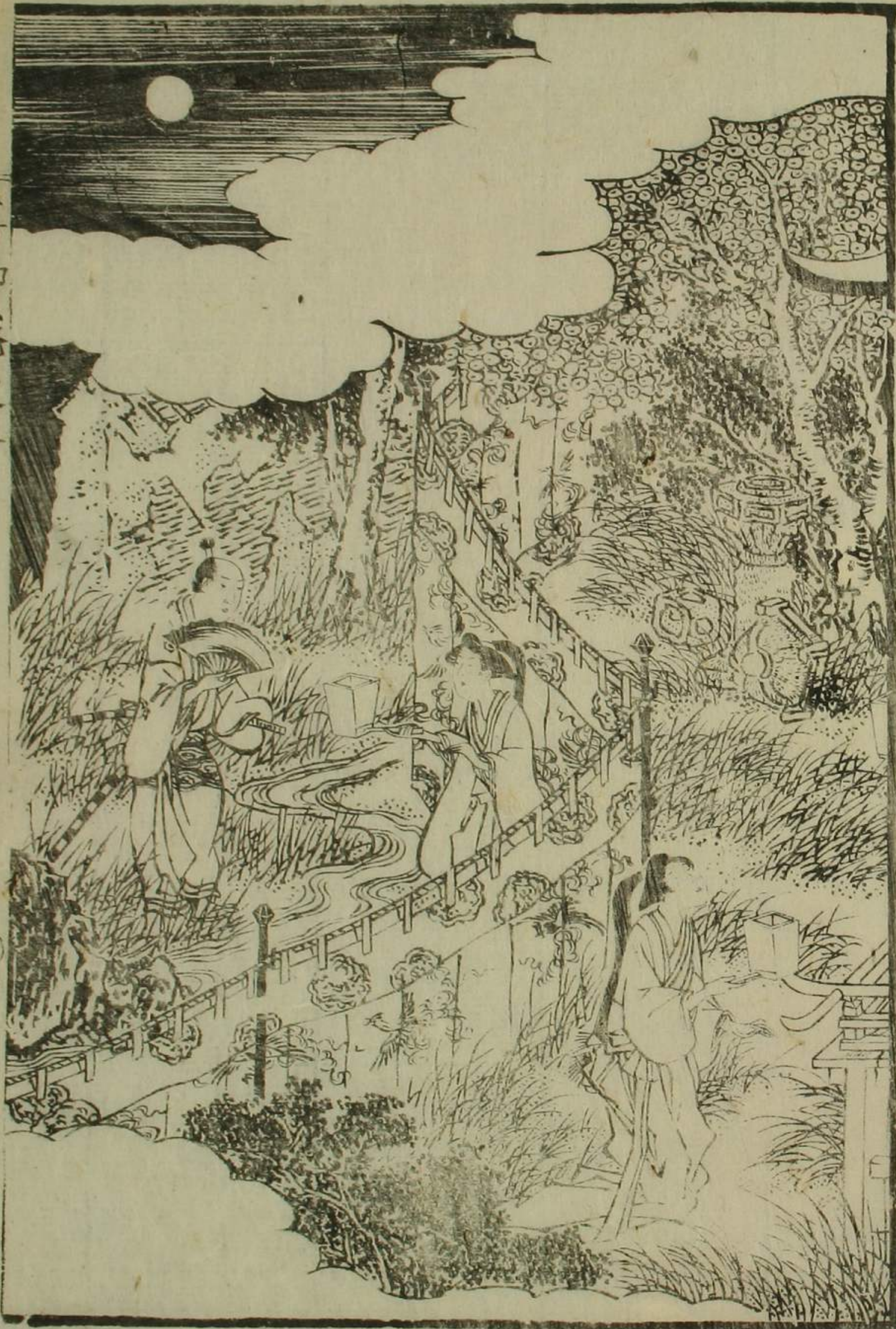
味方さあつて宿因とおぼえたらとてやその一巻お姓名を記して姫君の御
 心安んじし。ゆあを光国俄不面公やゆげ。詞を正して答けり。其本公
 をとり御味方ほつとんとあひつるが。女性の企むのうはしと思案して
 心あもあつぬ无礼のこと公まじしあげり。計の奥妙なるを又なまうら
 ゆうて違背つたす。ん唯今よりと御味方不属し。太馬の労公尽し
 度とて懐中より旅硯とりのじて盟唇不堀江次郎當春と志し
 ぐ。姓名とのりゆじの。かあつてむさあつて。さそ滝夜刃姫公一巻公巻を
 て大い喜び。お酒食と与つて休息せしめると荒猪丸も命じ侍女公
 て帳内より入る。荒猪丸光国をめて家の席のみちびけり。手鐙ととり
 たる四人の者も先刺の无礼とゆじ。むと一礼の。て。おとふと退きけり。
 此時已み夜のく。と明りぬ。の四人の者ほとあゆ。是。おと猪丸が

手下の狩人野衾魔九郎。旋風囃六栗鼠早太山鷲呀助等之箇光
国名對面してともふもてかしくけり

以為橋 第十八條

此時も弥生の半中。清和の天氣ふもふなされ。古内裏庭前の櫻今と
盛咲乱しけぬ。一日滝夜刃姫あむの侍女女の童もふえしちう出酒
宴催し。花とちがめて奥トあひぬ昔さうとたまる。盡小費。以いとせほり
たる。泉水假山の清雅さうも。さや一昔の春秋とて。掃除とくつることも
なげとが土の明て山の吹ち。失ひ芥うづめぬ。水もあせぬ。植こみの柳
梯梢とほらぬ。ちうも。葛葛まといつて。とて。気候ふ。育深山木ふひじく
そのうらふ。さうも。ふとあうらう。んと。ふ白き真砂。わくの蒔石も。塵ふは
と。木の向くの石灯笼も。草むすふたふれて。苔ふくか。さう。アリ水のわさども

えきとぬ水草がもの生ふま。だて。水ののりも。ふえと。あねと。さうの度
かりけ。人いほ。人の人ふあ。さ。花い。人の春ふ。と。爛熳と
咲みち。さ。えぬ雪うと。う。か。あ。ぬ。あ。ふ。永。日。暮。さ。る
が。小夜ふ。花の木の。間。影。自。朧。月。と。賞。せ。む。や。と。て。る。夜。飲。と
催し。十種香。双六。絵。く。さ。花。む。び。な。と。奥。と。と。ら。れ。た。さ。か。あ。さ。ふ
つ。築。塙。の。く。れ。より。夜。風。れ。さ。う。て。灯。火。と。あ。く。吹。け。ぬ
侍女等。ふ。傘。と。その。あ。さ。り。小。綴。子。の。幕。と。び。じ。じ。土。器。あ。む。び。な。が
と。姫。不。ろ。障。の。機。嫌。あ。侍。女。等。ふ。の。ぬ。ひ。け。り。汝。等。い。ま。さ。や。あ。さ。む。さ
三月。四。日。大。内。小。花。の。宴。と。の。ふ。こと。あり。文人。小。詩。歌。を。献。り。り。て。其。才。と
ら。ろ。ら。ら。これ。の。異。朝。の。及。第。と。の。ふ。こと。ふ。准。へ。嗟。峨。淳。和。の。比。し。を。毎。年
あ。さ。ら。と。さ。く。我。も。帝。位。と。の。ぞ。む。さ。あ。ぬ。が。今。夜。の。遊。び。と。の。花



善和巻之五



満夜月姫の
内裏小夜の
宴
光目詩を吟
宴席又

の宴あそび准あそびへて。汝きみ等ら小歌とよむむべし。そしくつゝみみられこそ探題とひと
されけぬが。おろこれと探さぐりら。頭かぶとわめて打うち案あんト。手ておくおれつては
いどけむ。姫ひめこれをいづくふよむ。ゆぐれも秀歌あやう之の唯ただゝむらむ詩うたをつくら
人のつねこそ残念ざんねんなれと一向ひとつむぎが。まれは折あやも。つらむの幕まくの外そとふらふ
あやこそ

寂さびく。幽ゆう荘しやう迷ま樹じゆ裏ら
梅うめ林りん孤こ鳥と識し春はる澤せき
泉いづみ聲こゑ近ちか報ほう新あらた雷らい響きやう
従したが。此こゝ更さら知し恩おん顧かん渥おつ
とれたるふ吟ぎん。姫ひめ身みとそむたててくれとさる。うんじや今吟いまぎん。た
昔いひ嵯峨さがが天皇てんかう加茂かもちの齋院さいえん宮みや小行せうかう幸さちある。花はな宴えんとまう。けられむ。時とき供くわい

儒にゆ興こう一いつ降かう一いつ地ち塘たう
隱いん潤じゆん寒かみ光こう見けん日にち尅く
山さん色しき高かう明めい舊きう雨う行かう
生せい涯えん何なに以を答こた穹きゆう蒼そう

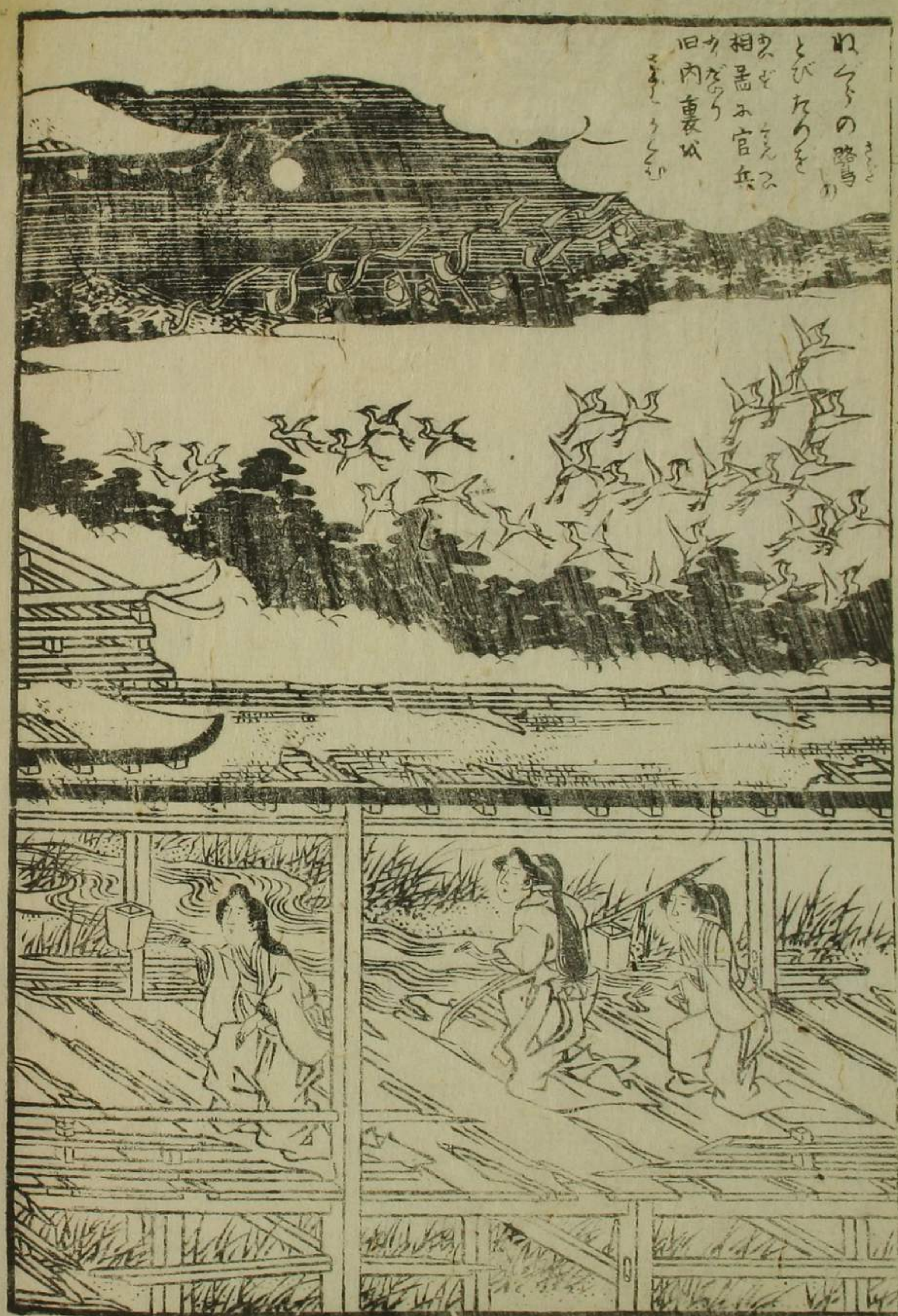
春の御相おんあひま各おの春はる日にち山さん莊しやうの詩うたと賦ふたる。齋院さいえん宮みやハ塘たう光こう行かう蒼そうの
字じと探得たんとくてつる。なる詩うたなり。時ときふらうて彼詩かゝうしと吟ぎん。たらハ
者ものおあむ。誰たれやもあれおてまめととあむをけし。一人ひとりの侍女しやくにょ手て
烛しやくとろうて庭にわみかり。た。幕まくの外そとふらうて。るね。一箇いつくわんの美男子うつくしきおとこ月下げつが
ホたふとて居いらりける。侍女しやくにょらうとより。今詩いまうたを吟ぎん。た。ハあそよ
る。姫君ひめぎみこもじり。あそよあれとゆふせむとのゆねが男おとこやうにた。体てい
まで某客殿それれきやくでんおあむ。あゆむ。朧おぼろ月つきのよさふらうけ出いでら。か。と歩あゆて
旅りよのうらふとら。築牆きよくわうのうられたる所ところと越こて。むらさきと此この一いつ所ところを深ふか
入いせ。姫君ひめぎみの御坐ござらうと。あそり。と。露つゆなるもる。むらさき。無な礼れいの罪つみ
とゆじむらう。御おんらう。は。え。むらさき。と。ふ侍女しやくにょこれと同おない。か。
苦くるし。むらさき。と。い。く。こ。あ。ふ。と。と。手てとた。ら。ら。て。姫ひめの目めとら。ら。い。さ。

たりひけり。その男椽側小平伏して居らる。此時姫ハ下濃の几帳とぞ。
 一はに唐錦の褥のくふ殿息ふよりとて。其ハ男とぞ。
 たり。汝ハ前日味方ハは死らる。堀江次郎當春よ。心かきどちり。
 たり。れとのくふふ。光国がづく。膝行てを。はらうく。出れぬ。
 姫土器とぞ。そのくふひけり。汝ハ武勇剛強のく。あて。文学風雅の道。
 あり。とゆん。とるひつるふ。さう。さう。斎院宮の詩と吟。たる。當意即。
 妙とる。六。詩文の事。とも。頗。つ。と。ま。今宵花の宴。ハ准。
 侍女ども。小歌。と。ゆ。め。たり。詩。と。つ。者。り。れ。と。や。と。ろ。折。返。
 汝と得。たる。も。幸。る。れ。と。て。題。と。い。は。れ。バ。光。陶。并。と。う。こと。あ。と。
 ひと。名。小。あ。つ。源。順。朝。臣。木。つ。と。そ。孝。ひ。たる。文人。な。れ。バ。こ。めて。案。々。け。ん。
 も。なく。や。ぞ。料。紙。筆。硯。と。も。一。絶。と。記。て。い。じ。け。れ。バ。姫。と。と。と。ス。と。誠。是。

司馬遷相如。筆力ハ符。杜子美。李白。法と得。たり。あ。る。文武の達人。ハ。
 と。大。ハ。賞。嘆。一。あ。つ。光。国。ハ。唯。拙。作。と。献。り。て。あ。れ。入。ら。と。答。け。り。時。子。姫。
 侍。女。ら。も。と。あ。つ。と。そ。光。国。ハ。あ。つ。く。次。へ。と。の。ひ。て。退。り。光。国。と。あ。つ。
 と。め。て。の。く。あ。ひ。け。り。毒。大。儀。と。企。つ。と。い。つ。も。い。つ。も。定。る。夫。は。汝。今。
 上。と。心。を。め。つ。け。て。妾。ガ。帳。内。ち。く。ほ。く。か。ん。や。若。あ。つ。バ。妾。大。望。と。い。げ。て。
 女。帝。と。あ。つ。が。汝。ハ。大。政。大。臣。の。位。と。授。萬。機。の。政。と。あ。つ。け。文武の百官と。
 して。拜。賀。せ。し。む。じ。唐。土。の。則。天。皇。后。我。朝。の。孝。謙。天。皇。の。例。な。ら。ん。や。
 と。の。く。あ。ひ。け。り。光。国。大。ハ。迷。惑。の。体。あ。て。下。賤。の。才。と。以。て。い。う。ぞ。高。貴。の。
 帳。内。ち。く。づ。さ。ゆ。つ。や。と。の。ひ。て。あ。つ。り。あ。つ。の。坐。と。退。ん。と。と。姫。打。り。ひ。
 花。月。の。情。ハ。あ。つ。て。い。う。ぞ。貴。賤。の。へ。を。て。あ。つ。ん。ら。う。う。り。取。と。の。ひ。つ。ら。
 織。々。素。手。と。の。べ。光。国。ハ。懐。あ。つ。と。は。い。れ。て。か。じ。持。た。る。短。劍。と。い。ひ。こ。い。じ。

さしてこそしく 汝味方につくとりつもの。實心おあつと察しなれば戯ふ
 こころせてころろつろふ果して懐中お剣とめし持たふ妻と害と
 恩賞おあづらんとのたふ疑は 汝堀江次郎當春といひつて誠
 大宅の太郎光国あやあつと星とさうれてさどりの大夫もたふ
 て事あつはるうへは是非おあつと短剣とひらひとり。唯一はたと
 つさうけなふ九女おあつぬ娘なればさやえと避たつ。袖香炉とさう
 て目つぶしおあつつけなつ。光国おとひわつとそれと避又つさうつて
 不や服息ととりとらぬとさうり曲者あつと皆すめれとさうりしけれ
 ば十四五人の侍女等。紅のたふとれひきさひ。白柄の長刀小照おあつとさう
 とさうと走り出て光国とわつとさうさう。四方一度おさうさう。光国
 手お照宜とひれあけてそれとさうりさうりければ灯臺ひらりて忽一室真の

周とちる。侍女等度と失ふひぬふ光国明障子以踢破りて空地ふとさう
 出空堀お飛入てのぐくとさうり逃失けり。浦夜刃姫声たふ。密儀と知
 ちる彼奴おあつと逃して大事件なり。さうの遠くお走るまじ武士どもおひ
 つぎとさうり追あつとさうり折し。銅登煩の音大雷のさう
 ろくさうりひびた。前面の森のあつと火花のつと飛散て森おあつ
 とさうりさうり。数百の白鷺とれおあつとさうり一度おあつと飛より。翻
 と羽たつとじて飛なりけり。忽陳鉦大鼓と乱調おあつと陳蝶と
 吹あつし。鯉波と嘯とあつと声風おあつとさうりゆくと閑えけり。さうひけ
 ちる事おあつとさうりの姫も仰天し。さうさうり楼おあつとさうりの柱おあつと
 つさうりおあつとさうり。四方おあつとさうり。さうりさうりさうり。数千の
 明松おあつとさうり。血星のあつとさうり。さうりさうり。さうりの旗



ねぐさの路身
 とびたりを
 相ふ官兵
 旧内重衣
 ころころ

宝篋山
 卷五

持物もの翻ひら翻ひらとして空そらなるむき。月つき映うつしておびなばしとて又また走りけり。
この大事だいじのぞきぬるハ大カク物の具ぐうに騒さわ動どう斜かたわらむ。姫ひめ蘇す以い
飛とぶるありてさきぐまのともと押おあぐら。荒あ猪じ丸まるのぐれあむと
とゆけり。真ま熊くま小こ臭くさ足あしこるとはけ。腹はら巻ま着きて二十四にじゅうよ差さる。胡こ篠しほ
とおひ。村むら繁あけ藤とうのうととり。一味いちゐの兵へいどもとひきて出来できり。大だい庭てい小
ひざぬづきてひけるハ密ひそ謀まう露ろ頭あたま。官くわん軍ぐんせ来きるとおひえハ一味いちゐの
兵へい皆みな一いつ騎き当あ十じゅうの者ものなりといども。いざ小こ勢せいとのひ。馬うま物ものの具ぐもこの
へざればととも大だい軍ぐんとひきうけたてあふことうあべうと某たれハ兵へいども
小下せうか知して矢や種むねのあふんきりハうせに箭や前まへ射いさせ命いのちととどふ一いつこさく
下あつた間あひだ。そのひも小こ姫ひめ君きみハ侍さむらい女むすめどもと召めい具ぐせられ一旦いつたんこことあちむひ
て。越え中ちゆう立た山さん小このちり。良よ門もん君きみの寨さや中ちゆうあがられしとて。時とき運うんのここと

待まち玉たまといつば姫ひめられと別わか我われもあうああり。汝なんぢをまかりて打うち死しこころ。大だいくふ
ふせにちが。あふふつとちからきとれとのこあふあぞ心得こころえハと替かて兵へいども
と引ひ連れん表ひょうのひも馳はりぬ。かして姫ひめ君きみくひく。打うち扮は侍さむらい女むすめどもあち支し
度た々々。明あ松まつの用意ようい。残のこる兵へいども小こ命いのちト。あつてまうけおさる。抜ぬ穴あなの
口くちおさる。大だい石いしとまるとのけあむけむ。こハ穴あなのうち。一いつ声こゑ尾お落おここと
響ひびき。地雷ちがひ火ひ大だい小こ発はつ。炎えん都と唐たう戸こ燃もつと。割きと頼たのくと燃もあがる。音ね
貝かい鉦しんのひげ。鯉こい波なみ笠かさ前まへ叫こゑの音ねあ合あして。天てん地ちもんらう。くうらう。姫ひめ君きみ
切きつと吃くとるれば。笹ささ竜りゆう膽たんの旗はた一いつちがれ。築つく塙はたけのうらう。又またえたり。さそ
ハ敵てきハ源げん氏しの奴やつ原はらとおがうぞ。たう鬼おに神かみあもあは。我われ自みづか一方かたと斬き破やぶり
てあちちん侍さむらい女むすめあふつつけそ。銀ぎんの煙けむり春はるあう。長ながひ引ひ側かたて。
椽えんさふ走出いし。馬うまとひれのせとよがう。あふ所ところハ隅ぐも田でん四し郎らう真ま熊くま

大童小童あり。枯野に残る冬草の風臥たるごとく矢と祈りけり。全才朱小
 深き戦はるるを走りて。大懸つるを申しけり。姫君の御運命唯今
 限りなり。そのものかれ出あふ事やふなるほど。敵ふ生捕てそのしめ
 どうけ玉のんやう。そりく御自害あそびさるごとく。某死出三途のち前駐
 侍るべしとつひもあふ。物の具ぬれを大肌ぬれて。腹十文空ふかきやぶ
 了腸とつらと出して大地ふまけり。その刀と口ふらへてうづらぶらぬ
 小伏けぬ。白刃のきんさ泥垣とつらぬ。一尺たうとあつ。はらへし事指
 たる真肉のこころふなりてぞ死しなすける。誠是目さぬ。さ死なむなり。
 死残りたる味方の兵士おひくふをせむとて大庭小居り。ひて或は腹か
 まはりて死す。あも或はさしちるてつらなり。依もあも暫時のうらふ
 五十余入死したるけぬ。血はあがれて大地ふ溢れ。漫として洪河の如く。

